

## 高大接続を意識した初年次教育プログラムの開発 —高校での探究活動に焦点を当てて—

Designing a first-year curriculum aligned with High School–University articulation  
—Focusing on inquiry-based activities in high school—

本田 周二<sup>1</sup>, 小川 浩<sup>1</sup>, 齊藤 豊<sup>1</sup>, 藏野 ともみ<sup>1</sup>, 池上 聖史<sup>2</sup>  
Shuji Honda<sup>1</sup>, Hiroshi Ogawa<sup>1</sup>, Yutaka Saito<sup>1</sup>, Tomomi Kurano<sup>1</sup>, and Satoshi Ikeue<sup>2</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学人間関係学部, <sup>2</sup>大妻女子大学企画・戦略室

キーワード：高大接続, 初年次教育, 探究活動

Key words : Articulation between High School and University, A first-year curriculum, Inquiry-based activity

### 1. 研究目的

文部科学省が28年に改訂した高等学校学習指導要領では新たに「総合的な探究の時間」が設けられることとなった。総合的な探究の時間の目標は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指すことである。もともとは、2000年度から全ての高校において「総合的な学習の時間」という科目が導入されていたが、新学習指導要領によって名称が変更され、2022年度から全国で実施されるようになっている。「総合的な学習の時間」では、探究的・協働的な学習が重視され、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを発展的に繰り返していくことが重視されてきた（文部科学省, 2018）。

しかしながら、平成27年度学習指導要領実施状況調査（高等学校 総合的な学習の時間）の結果において、高等学校にふさわしい実践が十分に展開されていないことが明らかとなり、より一層の充実を図るため、「総合的な探究の時間」が位置づけられた。より一層の充実のポイントは、①探究が高度化し、自律的に行われることを意識する、②課題の設定において、生徒が自分で課題を発見する過程を重視する、③他教科・科目等における探究との違いを踏まえる、というものである（文部科学省, 2023）。

このような意向を踏まえ、各高校では、独自の目標を定めた上で、内容を決定し、試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいる。ベネッセ教育総合研究所（2022）は、小中高校の学習指導に関する調査を行い、小・中・高等学校の学習指導の実態と教員の意識について明らかにしている。この調査によると、①高校における探究活動のテーマは「社会や地域の課題解決に関すること」「職業や自己の進路」に関するものが多いこと、②「アンケートやインタビューなどの調査を行う」「実験・観察を行う」の割合が増加するなどこれまでよりも活動が多様になっていること、③「コンテストや大会で発表する」「専門家・研究者から指導を受ける」など、学校外の場合やリソースを活用する活動が増加していること、④「活動のプロセスや成果を評価すること」「方法論を教えること」「熱心な生徒とそうでない生徒の差が大きいこと」「探究に必要な教科の知識・技能が不足していること」が課題として挙げられること、が示されており、成果が上がりつつも、まだまだ改善すべき点が多いことがわかる。

このような背景を踏まえ、近年では「総合的な探究の時間」を高大連携・高大接続の一つとして位置づけた取り組みが見られるようになっている（例えば、五浦・椿, 2019；高橋, 2021 など）。これは上述した「学校外の場合やリソースの活用」にあたり、新学習指導要領に向けた答申において、高大接続改革に留意した高校の教育課程の編成・実施・改善・指導や評価の充実が強調されている（森

本・稲垣,2017) ことを踏まえると, 探究活動の充実に資するものとして今後も増加していくものと考えられる。

それでは, そのような学びを経た高校生を受け入れる側の大学教育にはどのような改善が求められるのだろうか。「総合的な探究の時間」が拡充していくことに伴い, 大学において実施されている初年次教育の見直しは必須であろう。初年次教育とは, 「高等学校から大学への円滑な移行を図り, 大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく, 主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム。高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり, 新入生に最初に提供されることが強く意識されたもの。」のことを指す(文部科学省,2017)。大学において様々な初年次教育プログラムが実施されているが, これらは高校での「総合的な探究の時間」での学びを活かされたものにはなっていないとは言えない。高校からの学びの連続線上に大学教育を位置づけ, 高校から大学への移行をスムーズにすることを考えると, 現在の高校においてどのような探究活動が行われているかを整理し, これまでとは異なる初年次教育プログラムの開発が求められていると言える。

そこで, 本研究では, 先行研究の整理および高等学校の教員への調査をもとに, 高校において行われている探究活動の実態を把握すること, その結果を踏まえ, 「総合的な探究の時間」を発展させた初年次教育プログラムの開発を目指すことを目的としていた。

## 2. 研究実施内容

先行研究における探究活動の整理を行った。論文の検索は, 日本の学術ジャーナルを発信するオンラインプラットフォームであるJ-STAGEにより行い, 論文タイトルに「総合的な探究の時間」を含むものを取り上げた。その結果28本の論文が抽出された(表1)。発行年を見ると, 2019年に2本, 2021年に5本, 2022年に7本, 2023年に10本, 2024年に4本であった(2024年12月時点)。論文の内容を整理すると, 1) 実践事例の報告(カリキュラムの紹介), 2) 生徒を対象とした学びの効果に関する研究, 3) 教員を対象とした「総合的な探究の時間」に関する考え方や実践の振り返りに関する研究, が中心であった。また, 数は少ないが,

「総合的な探究の時間」における学習評価について問題提起をしている論文も2本見られた。

表1. 「総合的な探究の時間に関する」論文一覧

No	タイトル	年号
1	高等学校「理数探究」および「総合的な探究の時間」における発見・検証・開発・他に至る探究過程の指導の模索	2019
2	「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」への変化の考察	2019
3	「総合的な探究(学習)の時間」におけるクラウド活用の利点と教員に求められるスキルの検討	2021
4	「総合的な探究の時間」の実践と評価からの考察	2021
5	総合的な探究の時間と特別活動においてエージェンシーの育成をめざす教材の検討—教材の要素抽出の試み—	2021
6	「理数探究基礎」から「総合的な探究の時間」へつなぐ履修方法の提案 ～高校生の科学的・数学的リテラシーを高め, 探究活動に活用する方法として～	2021
7	高校・総合的な探究の時間の課題研究(探究活動)における実践事例—授業から課外活動へ地域の小学校との取り組み—	2021
8	「総合的な探究の時間」における「深い学び」を目指した省察的探究と協働支援型評価	2021
9	スーパーサイエンスハイスクールにおける特別活動と総合的な探究の時間	2022
10	コロナ禍において教師が捉えるエージェンシーとコンピテンシー	2022
11	総合的な探究の時間におけるグローバル教育の実践(SDGsをテーマとした汎用的な教材開発を目指して)	2022
12	「総合的な探究の時間」において身につく能力に関する探求的検討—A高等学校総合学科2年次の探究学習に注目して—	2022
13	教師の意識変化はいつになされるか—総合的な探究の時間の実践に着目して—	2022
14	PBLに基づいた「総合的な探究の時間」における生徒の振り返りの検討	2022
15	総合的な探究の時間における学習評価をめぐる論点	2022
16	PBLに基づいた「総合的な探究の時間」の実践	2022
17	多文化教育の観点からみた日韓の教科外活動	2023
18	～日本の「特別活動」・「総合的な探究の時間」と韓国「創意的な体験活動」の比較～	2023
19	高等学校「総合的な探究の時間」におけるDXの概念を用いた問題解決方法を学ぶ授業プログラムの開発	2023
20	高等学校「総合的な探究の時間」の運営における教員トレーニングの課題—「できる人任せ」をいかにして防ぐか—	2023
21	「総合的な探究の時間」を基盤としたアカデミックスキルの育成に関する実践	2023
22	総合的な探究の時間におけるグループ・モデレーションの進展—公共的理由としての評価規準へ—	2023
23	総合的な探究の時間で生徒は何を学んだか?—振り返りシートと計量テスト分析の試み—	2023
24	「総合的な探究の時間」における「課題の設定」時に生徒が感じる困難に関する一考察—「考え方」に注目して—	2023
25	総合的な探究の時間における高大連携の効果の検討	2023
26	マインドセットが総合的な探究の時間の達成感に与える影響	2023
27	創造活動をもとめたSTEAM教育の実践に向けた総合的な探究の時間における課題	2023
28	高校生の情報活用能力の育成を目指したデータサイエンス講座の実践報告—総合的な探究の時間を用いて—	2024
29	「総合的な探究の時間」における情報収集活動の整理—STEAM教育の「7つのプロセス」に焦点を当てて—	2024
30	PPDACサイクルモデルに基づく「総合的な探究の時間」の指導計画作成補助システムの設計	2024
31	「総合的な探究の時間」の中間発表時の振り返りに見る探究活動の実態	2024

## 3. まとめと今後の課題

本研究において, 先行研究における探究活動の整理を行った。様々な実践が行われているが, 学びの効果に関する指標が限られており, 「総合的な探究の時間」によって生徒がどのように成長したのかについては更なる知見が必要になること, どのようなカリキュラムが望ましいかという教員の試行錯誤が続いていることが示された。今後の課題としては, 当初, 教員に対する調査を予定していたが実施できておらず, 先行研究の整理にとどまってしまったことから, 教員への調査を行うことで, 高校において行われている探究活動の整理を行っていくことが挙げられる。

## 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成(K2415)「高大接続を意識した初年次教育プログラムの開発-高校での探究活動に焦点を当てて-」を受けたものである。